



育ちの芽

園長 安達 巡

～ 『本の木』・『CAVE』（洞穴） ～

皆様方にも報告していた通り、この夏休み中に実施していた図書室改修工事が無事に終了しました！
8月末の業者からの引き渡し日、壁一面に施された大きな木を見た時、

「これは子ども達、絶対に登りたくなるよね～」

・・・と危惧していたら？案の定、大掃除終了後の見学時、図書室に入ってくるなり、

「わ～～～木や～～～！！」

と歓声をあげ、よじ登ろうとする子ども達がいる、慌てて止めたしだいです。そこで、なんとか木登りを食い止めようと、木の枝に様々な絵本を並べてみると？やっとな『本の木』であるということに気づいてくれたようで、それからは登ろうとする気配が無くなりました！

また改修後の図書室には他にも、『CAVE』（洞穴）という仕掛けがあり、見つけたとたん大勢の子ども達が、出たり入ったり中で寝転んだり、ひとしきり遊んでいました。けれどもしばらく遊んだ後には、芝生をイメージして設えられた緑のカーペットに腰をおろし、じっくりと絵本に集中する子ども達の姿も見られ・・・そんな子ども達の様子を見ていると、これからは以前よりもじっくりと、図書室にいる時間が長くなりそうな予感がしています。

～ ハード面の（園舎・園庭）整備について ～

母の会総会や、保護者懇談会でも、折に触れて説明してきましたが、本園の園舎は昭和54年に施工されて以来40年が経過し、ところどころ老朽化も目立ち始めてきました。また皆さんご存知のように、園全体で一昨年から取り組んできた『新幼稚園教育要領の改訂に伴う保育内容の見直し』を進めていくうえでも、使いづらさや環境設定の難しさも感じるようになりました。そんなわけで本園舎施工50周年を機に、毎年徐々に改修を進め、ハード面の環境整備をしていく予定です。

今回まずその皮切りに、老朽化していた図書室について、私どもの想いを受け止め素敵な設計をしてくださったのは『アバクス・アーキテクト』です。今後の改修についても引き続きお世話になりますので、興味のある方はHPもご覧ください。

また今回の工事を無事に進めていけたのは、母の会の役員・委員さんを始め、保護者皆様方のご協力があったからこそでした。今後も、『子ども達が過ごす空間が、より良いものになること』を目指していきますので、ご支援・ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

幼児教育・保育無償化がスタートします！

いよいよ来月1日より、幼児教育・保育無償化が始まります！

1学期末の説明会でも少しお話ししましたが、この制度が導入される理由には、もちろん現在国が抱える大きな課題、少子高齢化社会に向けての対策もありますが、本来の最大の目的は、『全ての子ども達に質の高い教育を受けさせる』ことです。

2010年に、ノーベル経済学賞を受賞した、シカゴ大学のジェームズ・ヘックマン教授が、『幼児教育は教育において最も投資対効果が高い』という調査結果の論文を発表して以来、世界中で幼児教育が重要視されるようになりました。そのため欧米諸国では、もっと早い時期から就学前教育の無償化が進んでいました。この度「やっと日本も！」と喜んだと同時に、ふと疑問に思ったことは、日本では「長時間保育までが無償」になったという点です。なぜなら、幼児教育の重要性が世間に周知されてきたと共に、これもまた様々な研究から、どれだけ質の高い教育を受けても、子どもの育ちにとっては、『家庭教育の影響がいちばん大きい』ことも立証されてきたからです。

もちろん保育無償化は、若い子育て世代の経済支援や、国の労働者確保にとっては、プラスになるかもしれませんが・・・本来の目的であった、「子どものための無償化」が、「大人のためだけの無償化」にならないことを願い、新たに迎える制度を慎重に見守っていきたいと思います。

『子どもの健全な育ちにとって、家庭教育が何よりも大切』とお伝えしたことから、もしかしたら？「いったい家庭でどう過ごしたらいいの？」「〇〇させなければ！」等と焦られたり、不安を与えたようでしたら申し訳ありません。今の日本の現状では、長時間保育の必要な家庭の増加も、しかたのないことですよね。その分たとえ短い時間であっても、お子さんと共に過ごす時間を、大切に過ごしていただけたらと思います。

限られた時間の中でも、子どもの心や脳にも栄養を与えることができる、関わりのヒントとしましては、以前『スマホが学力を破壊する』の著者、川島隆太先生（東北大学加齢医学研究所所長）のご講演でも聞いたのですが、

○1日10分でもいいので、我が子ときちんと向き合う。

（決して命令的・指導的・決めつけでなく、子どもの話に耳を傾け共感してあげたり、ゲームや手遊び等を共に楽しむ）

○絵本の読み聞かせ

○週に一度でもいいので、子どもと一緒にオヤツ作り

（失敗したことを決して叱らずに、上手くできたことを褒めてあげる） 等

川島先生の著書はとてもわかりやすく、家庭でも気負わずにできるヒントがたくさんありますので、興味のある方は参考にしてみてください。